

議事録

令和7年度 第1回彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会

日時：令和7年7月4日(金)15:30～16:45

場所：彦根市役所5階 会議室5-1

1 自己紹介（所属・名前）

2 会長・副会長の選出

会 長：彦根市スポーツ協会 事務局長 日夏晶一

副会長：びわこ成蹊スポーツ大学 教授 黒澤寛己

3 報告事項（10 分間）

・部活動地域移行の令和6年度取組について

【稲枝中の報告】

学校単位型R3～国の委託 地域クラブ活動 受益者負担（1,000 円/月）

成果：地域に浸透したことで、すべての運動部活動で専門的な指導が行えている

課題：人数の減少により、チームの継続が難しくなっている

指導者の後継者の育成

持続可能な予算確保の在り方

【水泳の報告】

成果：安定して活動できており、指導者からも生徒からも肯定的な感想

専門的な指導と他校生との交流

課題：移動時の安全確保と保護者負担が課題 水泳部がない学校からの受け入れを検討

【剣道の報告】

成果：指導者が安定して確保できている（剣道連盟、やりたい教員）

課題：事務局の業務が多い

生徒や保護者の考え方の多様化（なぜ剣道なのか、移動の大変さ、受益者負担について）

【文化部会の報告】

成果：以前は「場所」「楽器」のことから難しいと考えられてきたが、前にすすめている

放課後児童クラブのような形での運営はどうか検討中

課題：指導者が7校にそれぞれ必要で、最低7名確保できる見通しはどうか

【学校調査部会の報告】

アンケートについて

教職員に向けて、周知と指導者確保を目的に実施したが、地域クラブ活動に「関わりたい」と回答した割合は、小中学校ともに少ない結果となった。

☆報告についての質問はなし

5 協議事項（45 分間）

【情報提供】

国の方針…改革実行期間内（前期 R8～R10 後期 R11～R13）で「休日については、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す」

滋賀県の方針…「地域連携」を中心とした部活動改革の推進

☆彦根市の方向性をどうしていくか

「平日は学校部活動、休日は地域クラブに可能な地域やスポーツ競技、文化活動から移行」

- ・指導者が確保できたとしても今後の生徒数を鑑みて学校部活動を維持が難しいため、今すぐに地域展開は難しいと思うためこの方針でよいのではないか
- ・膨らみすぎた学校部活動をいかに縮小するか、という視点での改革も必要
- ・成果を求める大会やコンクールへの参加への考え方を変換が必要
- ・学校単位よりも、高島市がやっているような競技ごとに持続可能な体制の検討が必要
- ・どのように生徒や教員に周知するのか→動画を使っているが、なかなか周知できていない
- ・稲枝の地域クラブはやめて、競技ごとの方が持続可能な体制となるのではないか
- ・近江八幡市、高島市はしっかりと予算をとってやっており、また学校管理下で行っている
- ・「競技専門部の考え」をもとに次年度予算を確保する取組が必要
- ・予算は大切だが、受益者負担の形もあり、保護者アンケートでは R5 の段階では 3,000 円が妥当という意見が一番多くなっていた。しかし、今まで 1000 円で実施してきたのに、受益者負担が急激に増えると持続可能となるか
- *受益者負担について、市として、上限を決めておかないといけないのではないか

市の方向性については、今年度は提案の形で

【今年度の取組】

①地域スポーツクラブ活動

【教室型実証事業】

- ・各校陸上競技部顧問による兼職兼業だけでは良くないので、教員以外の指導者も取り入れていく。
- ・土曜日に部活動、日曜日に地域クラブというのは、部活動の活動日数を削減していこうとする流れに合致しないので、明確な枠組みの整備が必要ではないか。

【中体連専門部別の部活動改革】

- ・専門部ごとにすすめるとなると予算はどうなるのか
→次年度予算の参考にし、R8 年度～実施できるところから進めていく
専門部が勝手に進めるのではなく、各専門部と事務局でヒアリングを行ったうえで、人、場所等の整備を見込んだプランを作成し、予算に反映していく
- ・コーディネーターの確保（事務局）が必要なのではないか
→必要になっているので、今後は総括コーディネーターの任用も考えていきたい。

6 事務連絡

- ・今後の協議会の予定